



噂の八百屋だより

野菜と果物と、いつもの会話。



野菜を買う日も。ちょっと話したい日も。

住宅街のお店で、うれしかったこと。

店主のひとこと

「昨日のあれ、美味しかったよ」
が、うれしくて。

「まだ冷蔵庫にあるけど、新鮮なままだよ」
「やっぱり鮮度がいいね」。
そんな声をいただくのが、何よりうれしい瞬間です。

うちは野菜や果物、日配品を扱う八百屋です。肉や魚まですべてがそろうお店ではありません。それでも、毎日のようにのぞいてくださる方、話をしに来てくださる方がいます。

「野菜や果物なら、噂の八百屋」。そう思い出してもらえるように。鮮度はもちろん、お客様との会話も大事にしていきたいと思っています。

店主 明田充弘

うれしかった
お客様のことは

昨日のあれ
美味しかったよ。

やっぱり
鮮度がいいね。

わかったわ。
買ってあげる。

店主の記憶に残る言葉を
取材回答から再構成しています。

裏面は、閉店後の自転車と「お昼食べな」のお話。

店の向こうに、人がいる。

八百屋をやっていて、 よかったなと思うこと。



開店したころの話

閉店のあと、 自転車で駅へ。

開店したばかりのころは、問屋さんとの信頼関係も、これからでした。翌日の支払いにつながる現金を、なんとかつくらなければならない。そんな日々でした。

閉店後、売れ残った野菜や果物を自転車で載せ、駅まで売りに行くこともありました。売って現金をつくり、翌日に問屋さんへ支払う。その繰り返しの中で、少しずつ信頼を積み重ねていきました。



地域のお客様に助けられて

「お昼食べな」 そのひと言。

お客様が、お弁当やおかずを差し入れしてくださることがありました。「お昼食べな」。その言葉と気持ちが、本当にありがたかったのを覚えています。

売れ残りそうな野菜を前に「助けてください」とお話しすると、「わかったわ、買ってあげる」と応えてくださる方もいました。商品を買っていただくだけでなく、人と人として支えていただいたお店でした。

お店の顔をつくっているのは、スタッフです。

店長一人ひとりに個性があり、その人を信頼して通ってくださるお客様がいます。スタッフの力で、お店は育ってきました。新鮮さに加えて、「面白い」「ワクワクする」と感じてもらえる店づくりも、大切にしています。

今度は、あなたの話も聞かせてください。

好きな野菜や果物、おいしかった食べ方。次にお会いしたときに、ひと言聞かせてもらえたらうれしいです。